

---

# 永遠の答え

並木沙知子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

永遠の答え

### 【Zコード】

Z4786

### 【作者名】

並木沙知子

### 【あらすじ】

主人公は昔手を出した麻薬から未だ抜けられない。  
それどころか、更に嵌つて夢か現か分からなくなってしまっている。  
そんな時、玄関からノックの音が響き渡つて…

脳の置くまでとひけるよつた底の無い陶酔。

永い陶酔に恍惚としていた。  
何度も、何度も繰り返し襲つてくる酔いに、唯意識を遠のかせていた。

いや、そうじゃない。

“陶酔”がよかつたんじゃない。

私が酔つたのは、もっと違うもの。

遠い昔に失つたそれを追い求める感情。

遠い感覚が探す。

適切な言葉を必死に追う。

一時的な永遠は未だ存在し続けている。  
でも、気が気じゃない。

この永遠は現実の時間で、1時間かもしれない、10分かもしれない  
…もしかしたら1秒にも満たないかもしれない？  
ある日、目覚めた時には30分だった。

…私が遠い昔追い求めていた、“それ”は、…そうだ、これ。  
刹那に過ぎゆく、欺瞞に満ちた“永遠”。

永遠の答え

それは永遠を思わず望むほど愚かで、消えゆくも知る哀しい響き。永遠に続くほどになれば苦痛で、切れた時には全身の苦痛が襲う。いつそ知らなければよかつた、と舌打ちした回数なんてもう数え切れない。でも、勝てない。

プラスチックの使用済みの…空の容器がくすんだフローリングに転がる。

いつからだらう、依存し始めたのは。

壁にかかつた埃っぽいカレンダーは何も教えてくれない。

よく見ると青白い腕は不気味で、常に震えている。

寒いのではない、暑いのではない、微かな白い粉のせい。

紅い痕がたくさん鬱血した腕で私は何を抱けるのだらう、何を追いかめるのが許されてるんだらう。

何も許されちゃ居ない、あの日の自分から。

それ以上の罪悪感なんていらないのに、気付けば新しい粉の袋。

微かな重さは、前回よりも重い。

なんでだらう、お金なんて払つてない。事実財布は触つた形跡の一切無い気に入つていた鞄の中のはず。

私はあの白い粉のせいで魔法使いにでもなつたのかしらん？

…なんちゃつて。

結局体内に溶けてゆく白い粉たちのせいなのかそうではないのか、とりあえず機嫌がいい。

数少ない機嫌のいい日、この間に新しい話を書いてしまおうと思つたのに。

アイデアは浮かぶ、紙もペンもある、なのに文字が読めない。

これでも人より上手い自信のあった字、本人すら読めない。  
そのせいでせつかくのアイデアたちも消えていく。

生きる為のお金すらない。

また貯金を崩さなきゃいけない。どうしよう、収入なんて無いのに。

毎日の生活の答えすら見つからない。

何が悪いのか、それはわかっているのに。  
それを生活から失くす考えが浮かばない。  
なんでそれなしで生きていけるのだろう？

生活の出口が見つからない。

扉なんてもう閉ざされてしまった。

私の手なんかじや開かない。

せっかく今頃見つけた開かない出口の扉の前で、唯私は崩れ行く身体に脱出を阻まれ、ひれ伏し、朽ちてゆく。

誰も来ないはずの部屋、3回1セットのノックを2回繰り返される。  
面倒なはずなのに身体は勝手に玄関に向かう。

今までめんどうかい考え方を捨てて、私はマリオネットのよう  
従順に玄関の扉を開けた。

疑いなんてもう持つことすら出来ない。

見慣れた風景の中、出した手に白い粉がのる。

私は狂喜して扉を閉める。

誰が渡した？

そんなの、どうだつていい。  
粉が手に入るのなら。

永い陶酔の前に、身体は悲鳴をあげる。  
もう陶酔に追いつけない、無闇な永遠は苦しい。  
抜け出したい、けどあのプラスチックから離れられない。  
欺瞞に絡まりもう抜けられない。

ただ、小さい頃に望んだ“永遠の幸せ”に触れたかった。さうとも  
れだけなんだと思う。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4786j/>

---

永遠の答え

2010年12月30日18時30分発行